平成２９年度視察研修・研修会等報告書②

議席番号（２番）　議員名（藤田　欽哉）

１．年月日　平成３０年1月２２日（月）～２３日（水）　（日数　１泊２日）

２．場　所　千葉県柏市

３．視察・研修事項

（１）柏市『市庁舎整備について』

（２）柏市『かしわインフォメーションセンターについて』

４．面接者　以下に記載

５　視察研修・研修会の成果

（１）柏市『市庁舎整備について』

面接者　柏市総務部資産管理課　課長　有賀　浩一　様

柏市総務部資産管理課　格内　健司　様

【柏市の概要】

面積１１４．７４㎢　人口４２０．８２４人（平成29年10月末現在）

柏市は、千葉県の北西部に位置し、隣接する市は、東に我孫子市・印西市、利根川を挟んで茨城県取手市・守谷市、南に鎌ヶ谷市・白井市、西に松戸市・流山市、北に野田市となっている。鉄道は都心から放射状に常磐線及びつくばエクスプレスが、南北には東武アーバンパークライン が通っている。道路は東京・茨城方面への国道 6 号線や常磐自動車道、埼玉・千葉方面への国道 16 号線が通っており、首都圏の放射・環状両方向の交通幹線の交差部に位置する交通の要衝となっている。地勢は概ね平坦であり、下総台地の広い台地上を中心に、市街地や里山が形成されている。また、台地に入り込んだ大堀川、大津川、金山落などの川沿いや、手賀沼や利根川沿いに分布している低地では、干拓事業や治水事業なども進められ、まとまった農地等となっている。

【庁建設の経緯】

市役所第1庁舎(昭和40年築 6,409.22平方メートル)の老朽化に伴い、平成22年から代替施設の整備を進めている。

・平成19年旧第一庁舎耐震診断でＩＳ値０．３以下と診断

・平成20年６月　仮設庁舎整備プロジェクトチーム結成

・平成21年７月　仮設庁舎建設・施工業者の特定

・平成22年３月　仮設庁舎建設着手

・平成22年11月　仮設庁舎建設竣工

・平成23年７月　第一庁舎解体・跡地整備検討

【庁舎建設コンセプト】

基本理念

（１）「利用」しやすい庁舎整備
（２）「環境」に優しい庁舎整備
（３）「災害」に備えた庁舎整備

基本方針
（１）市民利用に配慮した対応
（２）環境の保全を配慮した計画
（３）資源の効率・削減化を目指し対応
（４）庁舎機能の拡充
（５）災害・防災拠点としての対応
（６）費用対効果（コスト）の対応

上の完成図は分館。構造など別館と同様

【建物規模等】
・延べ床面積　２８４７．０９㎡
・階数　地上４階
・構造　鉄骨造
・建築設備の種類　昇降機２基　自動火災報設備　屋内消火栓　誘導灯　非常放送設備

【建設費について】
設計から建築までを含めた、１０年間の賃貸借契約
契約期間終了時には市に無償譲渡される
（１）契約金額　　５４９，６３３，０００円（税込み）
（２）月払い金額　　４，５８０，２７５円（税込み）

【所感】
柏市は首都圏近郊の開発により、現在も人口は増加している。庁舎整備にあたっては、基本方針にあるように「費用対効果（コスト）の対応」も重視していた。上記にあるように、柏市役所別館の㎡単価は、１９３，０５０円になる。それを当てはめると、現在の矢板市役所本庁舎の面積は５，４６８㎡なので、約１０億５千万円で整備できる計算になる。庁舎建設には何十億円もの整備費用がかかると言われているなかで、柏市の手法は、非常に画期的であると思う。
市役所の建物が、豪華な物であっても、市民生活の向上は図れないと思う。今後は昭和３７年に完成した矢板市役所も更新時期にきているが、市執行部に対し、柏市の手法も積極的に提案していきたいと思う。

（２）柏市『かしわインフォメーションセンターについて』

面接者　柏市インフォメーションセンター　事務局長　小島　和子　様

【事業内容】

（１）かしわインフォメーションセンターにおける情報提供事業
（２）情報提供及びまちづくりに関する施設の管理、運営（柏駅東口駅前案内板の管理・運営）
（３）人にやさしいまちづくりの推進を図るイベントやシンポジウム、研究会等の企画、運営
（４）国内外の情報提供施設やまちづくり団体との交流、連携、人材の相互派遣、研修並びに各事業に参加するスタッフへの指導、助言および支援
（５）各事業を報告する情報誌及び書籍の発行と、活動内容の展示物品の制作と展示
（６）以上のほか、この会の目的を達成するために必要な事業

【設立の趣旨（平成１４年３月）】

柏市は千葉県の北西部に位置する、人口３３万人（当時）の中堅都市である。
市の中心街である柏駅周辺には百貨店やファッションビル、量販店を中心にいくつもの商店街が放射状に広がり、平日でも多くの買い物客でにぎわい、柏駅の乗降客数は県内１位となっている。また、近年、市北部には東葛テクノプラザ、さわやか県民プラザをはじめ、国立がんセンター東病院、税関研修所、東京大学柏キャンパスなど、大型公共施設の移転、開設が相次ぎ、県内外及び海外からの来街者が増加。それら買い物客や関係施設を訪れる人のためにも、さまざまな分野の情報を一括提供する案内施設が欲しいとの声が市民の間から上がってきた。同じ頃、市役所内でも行政や地域情報とともに民間企業や市民団体の活動状況などの情報を広く提供し、地域の活性化につながる施設を考える動きがあり、市の商業ビジョンにインフォメーションセンターの開設を盛り込み、研究、視察を開始した。こうしたなか、平成１３年４月、市の主要事業として正式に予算化され、インフォメーションセンターの設置が決まったことを受け、市民と行政の代表者が集まり運営体制を協議。両者のパートナーシップをもとに、有志が集まり会を組織し、その運営にあたることとなった。同年１０月、柏駅前にオープンした〈かしわインフォメーションセンター〉は、民間団体である柏市インフォメーション協会とその活動に賛同する企業や団体、多くの市民ボランティアの参加により、柏市及び近隣市町のさまざまな情報を提供し、まち歩きに便利なインフォメーション施設として年間約1万5千人の来館者を迎えている。

【所感】

かしわインフォメーションセンターは、柏駅ビル内のテナントに入居する観光案内や街なか情報、行政の様々な情報を提供する施設である。この施設は、柏市の商工会議所や観光協会などと連携はしているものの、別組織で運営されている。

現在矢板市には、観光案内や街なか情報を提供する施設はない。道の駅やいたの来場者数が１００万人に達するなか、訪れてくれた人たちへの情報提供の場存在していないのは、大変にもったいないことである。また、矢板市においては、観光協会が商工会内に設置されていることから、土日祝日は商工会は休業日であるため、矢板に訪れようとしている人たちに情報提供ができていないのである。

今後は矢板版のインフォメーションセンターの設置を強く提案していきたいと思う。

平成２９年度視察研修・研修会等報告書③

議席番号（２番）　議員名（藤田　欽哉）

１．年月日　平成３０年２月５日（月）～７日（水）　（日数　２泊３日）

２．場　所　鹿児島県姶良市・宮崎県小林市・宮崎県日向市

３．視察・研修事項

（１）姶良市『子育て基本条例の取り組みにつて』

（２）小林市『庁舎建設の経過・取り組みについて』

（３）日向市『庁舎建設の経過・取り組みについて』

４．面接者　以下に記載

５　視察研修・研修会の成果

（１）姶良市『子育て基本条例について』

面接者　姶良市教育委員会教育長　小倉　寛恒　様

姶良市学校教育課長　小林　俊一郎　様

姶良市教育指導係長　山崎　省一　様

姶良市教育指導主事　益満　陽平　様

【姶良市の概要】

面積２３１．２５㎢　人口７７，０２４人（平成30年1月末現在）

姶良市は、平成２２年３月に姶良町、加治木町、蒲生町が合併して誕生。薩摩半島と大隅半島の結束点に位置し、鹿児島県のほぼ中央に位置している。県庁所在地の鹿児島市と日本有数の温泉どころ霧島市に隣接し、空港や高速道路へのアクセスも容易である。地理的利便性の高いまちとして、人口が増加している。また、活火山である桜島を眺めることができ、海と山々におおわれた自然に恵まれた環境にある。

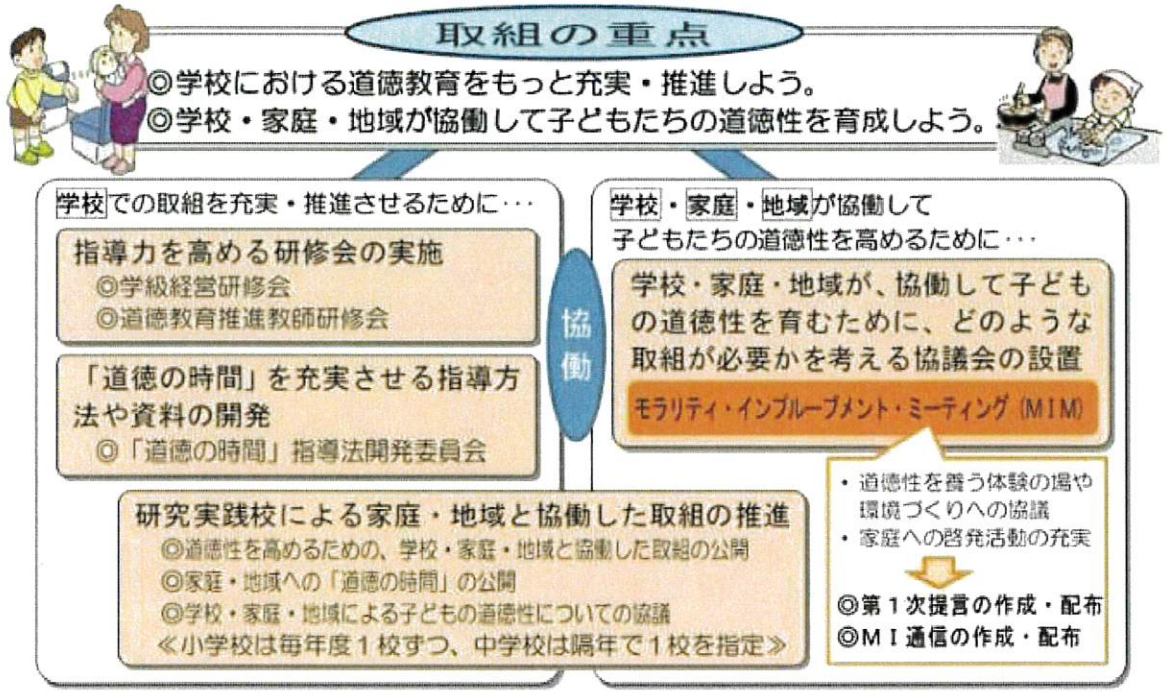
【条例の目的】

子育て基本条例は、未来を担う子どもの育成に関して、社会全体で子育てを進めていくための取組について、基本理念を定め、家庭、学校、地域社会、事業者及び市の役割と責任を明らかにするとともに、子育てに関する市の施策その他基本的事項を定めることにより、もって自立する子どもの育成に寄与することを目的とする。

【モラリティ・インプルーブメント推進事業】

モラリティ・インプルーブメント推進事業とは学校・家庭・地域が協力して、思いやりや感謝の心などの子どもたちの道徳性を高めていく働きかけを意図的・計画的に行っていこうとする事業である。道徳性が高まっていくことで、「自分を伸ばし、他人を思いやり、よりよい社会をつくっていこうとする心をもち、そして行動できる人」に成長していけるよう願って進められている。

（モラリティ＝道徳性、インプルーブメント＝向上）



【キャリア教育推進事業】

教育界と産業界の連携による児童生徒の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の育成をねらいとしている事業である。

【家庭学習支援事業】

目的：姶良市子育て基本条例に基づき、子どもの「自立」を目指し、学校・家庭・地域・事業所・行政が「協働」によって相互に学び合う場として、子育てに関する学習を行い、子どもの健全育成を図る。

【子育て手帳】

母子手帳からつづく 教育 HOW TO 手帳

家庭で手軽に実践できる教育のハウツー本。スクールカウンセラーも編さんに携わっていて、子育てはもちろん、お子さんの成長時の課題、心配ごとなどへのアドバイスが掲載されている。幼稚園から中学校までのこどものいる世帯を中心に配布されている。

【所感】

姶良市子育て基本条例は、小倉寛恒教育長の強いリーダーシップの下策定された。小倉教育長は元鹿児島県立高校教諭であり、現代のこどもたちの自立心の欠如を憂い策定に至ったようである。

矢板市は前市長からの施策として、子育て環境日本一を打ち出している。これにはハード面で整備ももちろん必要であるが、ソフト面においても充実した環境整備が必要であると強く感じた。矢板市においても姶良市の子育て基本条例を検討しても良いのかもしれない。全国の様々な事例を研究調査し、提案していきたい。

（２）小林市『庁舎建設の経過・取り組みについて』

面接者　小林市議会事務局　書記　西　直人　様

小林市管財課　建築住宅グループ　主幹　舘下　昌幸　様

【小林市の概要】

面積５６２．９５㎢　人口４７，１７４人（平成29年10月現在）

小林市は北に九州山地、南に霧島錦江湾国立公園の霧島連山を望む盆地に位置し、豊かな自然に恵まれ、中でも「陰陽石」や「三之宮峡」、「須木の滝」といった景勝地のほか、「生駒高原」、「すきむらんど」、「のじりこぴあ」といった観光地・施設がある。霧島の恵みである多くの湧水地や湯量豊富な温泉が点在するほか、ナシやブドウ、メロン、栗、マンゴーなどの産地でもあり、とりわけ日本一の「宮崎牛」の主産地として、それら各産業の振興を図っている。

【本庁舎の状況】

本庁舎は昭和39年に建設され、老朽化や合併に伴う狭あいさから市民の利便性や災害対策拠点機能、業務効率などに様々な弊害がみられていた。

【新庁舎建設に向けたこれまでの取り組み】

庁舎建設は、平成18年度に関係課による研究会を立ち上げ、平成19年度に副市長を委員長とした関係課長による検討委員会で構想案をとりまとめている。さらに野尻町と合併後の平成22年度に市有地等利活用基本方針策定委員会を関係課長で組織し、合併後の市有地と施設等の有効利活用に関する基本方針を策定し、この方針に基づいて、市民懇話会との意見交換や議会からの提言等を反映し、新庁舎建設についての考え方を再度整理して「小林市新庁舎建設基本構想」をまとめた。

【基本計画の位置付け】

基本構想策定後、庁内で「新庁舎建設推進本部」を立ち上げ、防災機能・窓口市民機能・産業活性・庁舎性能等について様々な分析や検討を重ね、さらに、建設敷地・規模・機能・施設内容・事業費や財源等、設計に向けての条件について検討し、一定の整理を行った。

また、基本構想と同様、市民懇話会や市民説明会での意見交換、議会からの提言等を反映し、より広く意見聴取に努めた結果として「小林市新庁舎建設基本計画」をまとめました。なお、本基本計画は本市が目指す庁舎像を明らかにし、新庁舎建設の指針となる基本的な考え方を示すものであり、今後策定される「基本設計」「実施設計」において、より詳細な検討・設計を行う際の指針となるものである。

【庁舎規模】

（１）庁舎本館（行政棟）

・構造：SRC造+S造（鉄骨鉄筋コンクリート造）４階建て　耐震構造

・床面積：５，０１０㎡

（２）東館（議会棟）

・構造：木造　３階建て　耐震構造

・床面積：１，９９４㎡

（３）述べ床面積　：　７，００４㎡

（４）工期

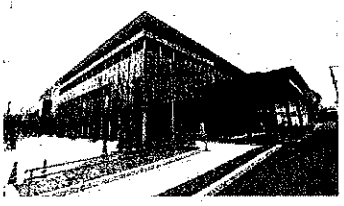
・平成２８年３月～平成２９年６月

・平成２９年９月～平成３０年３月（庁舎解体・外構工事）

（５）事業費

・総事業費　　３５億５千万円　（設計、解体、外構工事含む）

・庁舎工事費　２８億４千万円



【所感】

小林市の旧市庁舎は、矢板市同様、老朽化に悩まされており、防災上大きな問題を有し、庁舎建設は緊急課題であった。完成したばかりの市庁舎を見学させていただき、大変立派な施設であり、小林市産の木材をふんだんに使用した機能的建物であった。

矢板市においても庁舎の老朽化は深刻な問題であり、新庁舎は必要なのかもしれない。しかしながら、財政が逼迫している現在の状況を考えたとき、何をおいても今やるべき事業ではないと思う。市民のコンセンサスを得て、全国の事例を調査し、簡素で機能的な庁舎整備をしなければならないと感じた。

（３）日向市『庁舎建設の経過・取り組みについて』

面接者　日向市総合政策部新庁舎建設課　課長　植野　浩人　様
日向市総合政策部新庁舎建設課　課長補佐　和田　康之　様

【日向市の概要】

面積３３６．２９㎢　人口６１，０９８人（平成29年10月1日現在）

日向市は宮崎県の北東部に位置している。北は門川町、西は美郷町、南は都農町、木城町に接しており、尾鈴山系を南に、日向灘を東に望み、市西部の東郷町域から美々津・幸脇地区を耳川が貫流している。海岸部は、日豊海岸国定公園の南端に位置し、リアス式海岸と白砂青松の砂浜が織りなす海岸線は、自然の創り出した芸術とも言える景観の連続となっている。

気候は温暖で、年間平均気温は約17度と、降雪をみることはほとんどない。年間平均湿度は70%前後で、年間降水量は2,000ミリメートルを超えているが、一方、日照時間も2,000時間を超えるなど、晴天に恵まれた地域である。また日向市は、重要港湾「細島港」を擁し、昭和39年には新産業都市の指定を受け、以来、宮崎県における産業開発の拠点として重要な役割を担い、港湾工業都市として発展を続けています。平成18年12月には、JR日豊本線の連続立体交差事業が完成し、日向入郷圏域の顔となり交流拠点となるまちづくりが進められている。近年は高速交通網の整備も進み、「細島港」はもとより、観光資源や農畜産物など本市の特色を最大限に生かすことで、港湾工業都市として、更には交流拠点都市へと発展する大きな可能性が秘められている。

【日向市新庁舎建設事業】

日向市の庁舎は建設から50年近くが経過し、老朽化に加え耐震性にも大きな問題を抱えていた。このため、市では、市庁舎の建て替えにより抜本的な安全対策を講じることとし、平成25年度より新庁舎建設事業に着手した。事業の推進に当たっては、市民説明会や市民ワークショップの開催など、市民の意見を聴きながら構想・計画の策定、そして基本・実施設計を進めてきた。平成27年12月に新庁舎建設工事(第1期)の施工業者が決定し、平成28年1月から建設工事に着手した。

【市民が奏でる“交響"空間 ～優しく 強く 温かい“庁舎"～】

新庁舎建設のキャッチフレーズである「市民が奏でる“交響"空間 ～優しく 強く 温かい“庁舎"～」は、利用者や環境に優しく、災害などから市民を守る強さを備え、温かな地域社会を創るための協働のまちづくりの拠点施設として相応しい庁舎の姿を表現している。

【新庁舎建設の基本方針】

- ユニバーサルデザインを取り入れた人に優しい庁舎
- 市民サービスの向上を実現する庁舎
- 協働のまちづくりの拠点となる庁舎
- 防災の拠点施設となる安全・安心な庁舎
- 環境共生へ取り組む地球環境に優しい庁舎
- 日向市の地域性を生かし、周辺環境と調和した庁舎

【所感】

前記の小林市同様、日向市においても市庁舎の老朽化は深刻な問題となっていた。小林市、日向市に共通しているのは、合併特例債を使った新市庁舎整備であると言うことである。日向市の新市庁舎も大変立派な施設であった。

矢板市は合併特例債を使うことはできない。身の丈にあった市庁舎整備を考えなくてはならないと痛感した。